

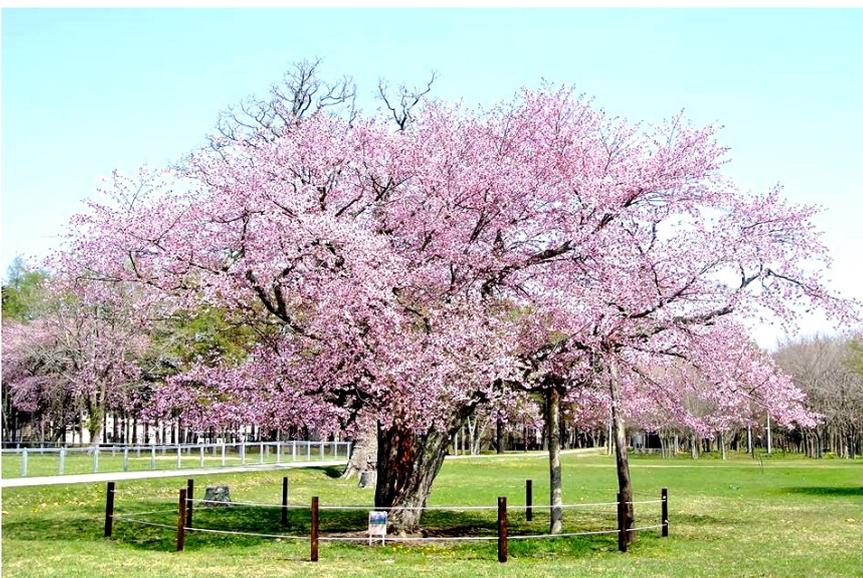
# マルセイニュース 5月号

発行日 2015/5/22

株式会社 マルセイ  
浦河町東町うしお1丁目  
〒057-0005 TEL 0146-22-5123



写真協力 地域おこし協力隊 中川 貢さん



今年の西舎の桜は見事でしたね。「うらたび2015カメラ女子旅」のツアー客のみなさんが、今年も浦河の風景を各所でパチリ！と楽しんでいました。手作りイベント「うららべつふえすた」にはなんと1,500人もの方が！ 浦河いいですね～



子ども大人も、女性も男性も、買い物をする人も出店者も、食事を提供する人も食べる人も、みんな楽しそうな会場でした。

「うららべつふえすた」に出かけて、今年もたくさんの笑顔に出会いました。前夜の雷と大雨にドキッ！雨も上がって本当に良かったですね^^

## 簡易車庫の解体！ ご相談にお応えしました



# 「家庭の片付け仕事」ご相談下さい

小さな暮らしのサポートにお応えしています



喜んでいただきました！

「簡易車庫の解体と処分をお願いできますか？」とご相談をいただきました。すっかりさびた鉄の支柱が弱つてぐらついていたこともあり、強風が吹くたびに近所に迷惑をお掛けするようになっては…と、とても気にかかっていたそうです。下見に伺ってお客様のご希望をお聞きすると、できれば埋設してある物干しの移設と、不用品な廃材の処分も一緒にして欲しいとのことでした。

お引き受けさせていただいた今回の仕事は、大ベテランと新人の二人が新コンビを組んで担当。支柱に使用していた太くて厚めの鉄のパイプは、業務用のハンドカッターで切断しました。屋根部分に使用されていたプラスチックは、経年劣化のために触るとパリパリと崩れてしまふほど傷んでいました。意外にやつかいだつたのが、鉄パイプの扱いよりもこの粉々になったプラスチックの後始末でした。

### 物干し場もご希望通りに移動



天気にも恵まれ、ご相談をいただいてから数日内に対応できたことに加え、ご希望通りにすっきりと片付いた現場の様子を見て、お客様に大変喜んでいただきました。



高さも違い、方向もまっすぐにはなっていなかった物干竿がとても気になっていたそうです。別の場所から移動させ、しっかりと設置し直した物干しを見て、本当に喜んで下さいました^^

設置しておいたら、粉々になってしまったかもしれません。片付けるのにも、よいタイミングでしたね。

## 灯油タンクの状態はいかがですか？



# 夏季期間にチェックして対応しましょう！

灯油タンクの交換移設のご依頼をいただきました。灯油の定期配送をさせていただいているお客様でしたが、タンクの脚部がすっかり腐って折れてしまっていました。事故になる前にお客様に気づいていただき本当に良かったとホッとしました。これからの夏季期間を利用して、灯油タンクの状態を点検してみてください。



### タンクの移設交換工事

脚部分が腐って折れてしまった灯油タンクです。屋根からの雨水が当たるところに設置されていたために、タンクが傷みやすい環境でした。(どうしてもそういう場所に設置せざるを得ない場合もあります)が、そういう時にはタンクの上に雨水よけの屋根を設置することもできます。)

今回は、お客様からの要望により、タンク交換を機に半地下の車庫内に移設することにしました。これで、雨水が当たるところは腐食の心配もぐーんと減ります。

お宅のタンクは大丈夫ですか？ 灯油タンクの中も外もチェックして、これから夏季の間に可能なメンテナンスを済ませましょう。



床下に潜った気田くんが車庫に通じるブロックにドリルで穴をあけて、新しい配管設置に取り組みました。どんどん仕事を覚えていく気田くんを、英司くんも社長と一緒にサポート。会社の環境整備も、若い二人が次々と取り組んでくれています。うれしいです！ ^^



# さようなら 収集運搬車のダイナくん！

2006年9月12日に納車された中古車のダイナくん。つい先日まで、ほとんど年中フル稼働で頑張ってくれました。傷み具合がひどく、さすがにお別れの日がやってきました。今日までありがとう！そしてさようなら～。

**お別れは  
ジーンときちやっとなね  
社長……**

2015年5月1日(金)の夕方、およそ9年間走り続けてくれた収集運搬車のダイナくんとお別れの時を迎えました。

「みんな！あのゴミ車ともお別れだぞ……と、一番感慨深そうだったのが社長です。社長に就任して以来、借入金返済しながらの苦しい期間を共にしてきた車でした。これまでこの車と一緒に働いてくれた人はもちろん、家族の思い出もいっぱいあったダイナくん。息子や娘も乗車して働いた車でした。

一方、新しい収集運搬車の使用準備が完了！こちらは5月2日にデビューしてから、早速フル稼働をしています。サビや傷みが目立っていたダイナくんからシユツとした新しい車に代わり、仕事先で出会う多くの方からも「新車にしたの？いいね！」と連日声を掛けていただいています。うれしいなあーと思いつつも、当社の場合今回も中古車です(笑)。でも、こうして新車に間違えられないほど、若者たちが大切に手入れをした自慢の車です。大切に乗りたいたいと思っている車のご紹介は、来月号で！



2008年6月4日(水)。みんなで環境整備に取り組みう！と、この日はごみ収集車をピカピカにしようと手分けして洗車しました。こびりついてたタール状の手強い汚れ。落とすのがとても大変でした。

それにしても、ここ数年を本当によく持ちこたえてくれました。「社長、助手席では傘をささないでびしょぬれです……」などなど、色々な思い出がある車輜でした。手を振って見送る前に、記念写真も撮りました。

## 新しくなった“社長の机”

社長に新しい机が当たりました。ばわふるが見つけた特別価格の目玉品。値段は、なんと！税込みたったの3,980円！少し手狭だった事務所が、社長の机を小さくするだけでみんなの動きも楽になりました。



「安かったの！」と届いた荷物を開くなりテキパキと組み立て、早速設置したばわふる。ユートラインの村下社長も「これ、いいですね～」

## 今年も楽しそうに花植えしています♪ 花いっぱいのはばわふるの花壇

お花好きのみなさん、お待たせしました！楽しみな季節がやって来ましたね。今年もスノードロップから始まり、チオノドクサ、クロッカス、ムスカリにヒヤシンス、そしてチューリップなどの宿根草が咲いてくれました。

他にも早速、ばわふるさんの花壇には、パンジーやデイズなどの色あざやかな一年草の花が植えられました。色も形もサイズも様々あって、最近のチューリップは本当に楽しみなお花のひとつです。ばわふるさんの花壇のおかげで、毎日お花を楽しみながら働く職場に恵まれています。ありがとう♥



お花選びも楽しそうなんです^^「写真撮らないでねー」と、汗をかきながら黙々と花植え作業に没頭しているばわふるさんの様子。

「浦河に、こんなに若い人と子どもがいるのか・・・」とびっくり！ どうです？ うららべつふえすたの会場に足を運ばれた人は、そう思ったのでは？



## 第3回 うららべつふえすた！

5月16日(土) 10:30~15:30

勤労者体育センター体育館・青少年ホーム・駐車場

ママだからやりたかったこと、できたことがありました。子ども連れに優しく親子で楽しめる遊びや体験。そして自分のお店も♪ 色々なアイデアを、ママの視点を大切にしながら企画した『うららべつふえすた』は大賑わい！

今年会場を移し、複数の施設を利用していたのが、どの会場も多くの人が訪れ出店者も足を運んだ人も、この手作りのイベントを楽しんでいました。

いったいどれだけの人の人が、この日の開催のために尽力していたのでしょうか。実行委員のママたちが力を出し切るためには、パパの応援が欠かせません。他にも、町内町外を問わず、たくさんの方々や行政の方、そして友人たちが開催に協力、応援しながら楽しんでる様子がすてきでした。

準備を進めて来た実行委員会の皆さま、ありがとうございます！ つつても楽しかったし、おもしろかったし、『うららべつふえすた』はステキでした！



写真提供：地域おこし協力隊 加藤エミさん

うららべつふえすた！「みんなの場」がつけられていることに感動しました！裏方で、大勢の料理を作っていたスタッフたちの笑顔もステキでした。



浦河の夏いちごの昨年の販売額が2.8億円を達成！ここに至るまでの11年の物語とこれからの想いを、菅正輝さんからお話していただきました。「売り上げ日本一になったけど、何よりも、浦河町のみなさんに愛される産業にしていきたいです。」「アイデアやアドバイスを皆さんからいただきたいです。」と、自らデザインカフェへ。「これからの10年は、僕らが次の物語を作っていく番です！」と力強く話されました。「すずあかね」が、この地域の作物として確たる位置を占めるまでの実際の物語に感動しました。

**まちの人に愛されるいちごに**

浦河・様似で協力して生産している夏いちご「すずあかね」。ケーキをはじめとするお菓子用のいちごとして高い評価を得ている品種で、銀座コージコーナーをはじめとした有名店でも取り扱われています。その一方で、ほぼ全量が東京方面に出荷されているため、浦河町内に住んでいる私たちが手軽に購入できたり、味わうような機会はほとんどありません。これは、かなり残念なことです。

今回は、「浦河の人達に浦河のいちごのことを知ってもらいたい、地域に何かを還元したい！」という熱い想いを抱いている菅さんが、自らカフエマスターを申し出てくれました。生産量日本一を達成した夏いちご「すずあかね」ですが、当初はたった4軒の農家さんでスタートしました。菅農園さんも、その中の一軒です。

新種のいちごが次々と生まれては消えていく中、菅さんたちは、「すずあかね」が消されないようにと、生産ハウスを増やし、様々な課題を乗り越えてきました。栽培や、出荷に至るまでには大変な苦労があったと菅さんは話します。当初は農協の協同選果・出荷システムに載せることができなかったため、全て自分たちで選果しなくてはなりませんでした。

朝、日の出と共にいちごの収穫をはじめ、手作業での選果を経て出荷。それからの手入れ作業や他の野菜の出荷と続き一日の仕事が終わるのは夜の10時頃。笑って話してくれましたが、その頃は家族の生活がおかしくなり、精神的にも追い込まれ、3代目のお父さんと激論を交わす日々だったそうです。

「日本一になれたのは、苦しい時に立ち上げた農業の先輩やその時々手を差し伸べてくれた人の応援があったからです」と菅さんは話されました。当時、役場の担当者は札幌から隔週で浦河に指導者を招聘し、自らも休日は野菜の出荷作業を手伝ってくれたそうです。種苗会社では当時「失敗作」ともされていた「すずあかね」ですが、指導者の方は販路の紹介も含めて浦河に根付くように、尽力してくださいました。

**若者を集めて青年部を作りなさい**

高価格で安定して取引される「すずあかね」は、きっと農家を幸せにすると考え、高い品質を保つように生産を続けて来た菅さんたちでした。そんな中、指導を受けていた「すずあかね」の生みの親である今野先生が、平成21年に病死されたのですが、その時、大切な言葉を残されました。

「若者を集めなさい。若者が集まる場所は若者が入ってくるから。そして青年部を作りなさい。」

その後、資金面で国の後押しもあり、新規就農者を募ることも進めてきました。4戸からスタートした生産農家が27年度は全21戸中、14戸が青年部世代です。今野先生の遺言とも言える言葉を守り、今では本場に若者から成る「いちご青年部」が活動しています。

菅さんは、今までとこれからは違うステージだと言います。これからの10年は、いちごが地元にも愛されるような取り組みをしていくことで、次世代の担い手づくり、ひいてはそれが産地としての競争力づくりにつながると考えています。

町外から移住して新規就農を目指す研修生も増え続けています。これから先の物語を作るのは僕たち若い世代だと話す菅さんと、「いちご青年部」の方々と出会い、正直、未来志向の若者たちがこんなにも浦河にいたのかと感動しました。

私達も浦河に育った新たな産業を応援していきたいと思えます。

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会  
村下 知宏  
小山 祥子



男性の参加が多かったのもこの日の参加者の特徴でした。

小グループに分かれてのワークショップでは、色々なアドバイスやアイデアが出されました。

浦河のいちごをもっと食べたい。手軽に買えるようにしてほしいという声が多く聞かれました。今後の販売方法や町民向け価格にも期待したいです。

最近読んだ本の中より…

# 『田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」』

わたなべ いたる

渡邊 格 著

出版社 講談社



あるとき上司から、資材業者とつるんだキックバックで私腹を肥やす企みに誘われたことがあった。「そんなはした金で僕を買えると思ったんですか」。威勢のいい啖呵を切って断り上司の上司に報告したら、なんと、それがきっかけで僕は社内のほとんどの人から総スカンを食うことになった。それ以来、仕事は一気にやりやすくなった。(本文より)

著者の渡邊さんはパン屋を始める前、有機農産物を扱う卸問屋で働いていました。上記はそのときの経験です。その会社で著者は「これって産地偽装じゃないの？」と腐らせた「売れなくてトマトを3トン腐らせちゃった」と平気で話す社員に、生産者のことどう思ってるの？と憤ったりしながら日々を送っていました。その頃を振り返りこう記しています。

たしかに僕がこの会社で経験したことは、多かれ少なかれ、誰もが日々の仕事のなかで経験し、大人なら見て見ぬふりをする、世の中の「グレー」な部分なのかもしれない。でも僕は、それから10年以上経った今でも思う。おかしなものはおかしいのだと。



著者は会社を辞め、パン屋となるべく修行を始めますが、そこでも同じような疑問を持ついたりします。天然酵母を使っているとは言い難いのに、堂々と『天然酵母パン』の看板を掲げていたり、添加物を使用しているのに『無添加』と表示している。しかもそのどちらも「合法」と言えば言える範囲内である。

さらに、以前の会社と似ているのは、過酷な労働環境でした。

その後、尊敬できるパンの師匠にも出会い修行を重ね、自分のパン屋開業の準備をしているときに、著者は父親に勧められてマルクスと出会います。パン屋さんとマルクス？とわたしも思いましたが、著書がひとりマルクスを読み、理解を深め、それを自分の仕事に实际的に活かす道を考えていく過程が書かれているのですが、これがものすごく面白かつた。

## 今でも思う おかしいものはおかしい

著者は勤めていたころ、「人間をボロ雑巾のようになるまで働かせるのは経営者の頭がおかしい」と思っていました。マルクスによるとそうではありません。著者がマルクスから学んだということに私なりに要約してみるならこんな感じでしょうか。

「君は自分の“働く力”を商品として社長に売った。商品は、買った人がどう使おうと完全に自由だ。社長がもうけを手つとり早く増やすカンタンな方法は、君を長い時間働かせることだ。残念だけれど、これは正当な取引だ…。」  
実際に著者が見た食品業界の姿は、そうやって“働く力”を限界まで使い、さらには商品を腐りづらくしてもらうけを増やす、ということでした。

そこから著者は、「腐る経済」というキーワードを生み出します。

この「腐らない」食べものが「食」の値段を下げ、「職」をも安くする。さらに「安い食」は「食」の安全の犠牲の上に、「食」の作り手から技術や尊厳をも奪っていく。そしてもうひとつ。時間による変化の摂理から外れたものがある。それが、おカネだ。

著者は現在、岡山県の勝山という人口約8千人のマチでパン屋を営んでいます。彼が作るパンは「腐るパン」です。地元在住の農家、レストランのシェフ、芸職人の方たちと「小商い」にとりくむ日々が、最高に充実したものであることは本書に添えられた写真から伝わってきます。



著者のパン屋「タルマーリー」は週に3日休みで、毎年長期休暇が1ヶ月。「利潤よりも大切なもののために、僕はパンを作り続けていきたいと思うのだ。」と記されています。小さな一歩でも、世の中を変革する一歩を踏み出す人の記録です。

社長

## 「小商い」が時代のキーワード

『小商いのすすめ』(平川克美著)という本について、何度か本誌上で紹介しました。「自分の考えと責任一つで商売をしていく」とは、規模なんか大きくならなくても素晴らしいことじゃないか」と語りかけてくる本です。この本に触発されて、SB研という小商いの勉強会も始めました。月に1度の勉強会ですが、一緒に学び合う仲間も増え続けています。

今回取り上げた本『田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」』の著者・渡邊格さんも、平川さんの本に共感したと書いています。その平川克美さんの新しい本が六畳書房に入荷していたので、『田舎のパン屋が見つけた』とじっくり読んでいます。志の高い叢書の一冊です。

社長





トーストに飽きていたら、ぜひどうぞ〜^^

## ガスを使っておいしくクッキング ツナ缶のバルサミコ酢炒め



久しぶりに登場した社長が担当〜♪未だかつてないほど実に簡単なクッキング。息子と娘からおいしい!と聞いたからでしたが…。どうやらこれは、お酒のおつまみ系? サラダにもアレンジできそうな一品でしたが、試します?

### ●材料(3人分)

ツナの缶詰 2ケ  
バルサミコ酢 適量  
オリーブオイル 少々



好みのパンにのせて野菜と一緒に食べました。  
・バルサミコ酢の量は好き好きなのでお好みで♪

すぐできちゃうぞ。  
このツナ缶、もう開けてもいいか?



### ●作り方 (参考レシピ? 社長とマックスの子どもたち)



1、フライパンを熱し、ツナ缶を開けて全部フライパンに入れる。

2、ツナに熱が入り、少しグツグツしてきたらバルサミコ酢を適量加えて炒めたらできあがり。

3、オリーブオイルを少しかけて食べる。



★★★★の連続記録がついに消えました。食事というよりもおやつタイムがあうかな?と、久しぶりにチェックのエプロンをつけた社長が作った今月の料理でした。

札幌で暮らす息子と娘が、「簡単でおいしい」と話していたのを参考にして作りましたが、「ところでそれって、食べたことあるの?」と質問するばわふるに「いや」と答えた社長とマックスの二人。「……」。

そのあたりからすでに、期待を持ってないような沈黙がありましたねえ。でも、みなさん、作ってみて下さいね。「サラダに合うんじゃない?」「カナッペみたいにして食べてもいいね」「オリーブオイルと合いますね」などなど、好き嫌いもあるかもしれませんが、ツナマヨともまた違ったおいしさが味わえます♪

その表情はどうしましたか?  
うん…のイメージとちょっと違う?



## ついに★★★★が消えちゃった!

| 試食した人                      | 今日の料理は★いくつ?(最高得点 ★3個)                    |
|----------------------------|--|
| (株)ユートライン<br>村下社長<br>(2.0) | ★★<br>これって、お酒に合いそうですね。<br>つまみ系なんじゃないですか? |
| マックス<br>(1.8)              | ★★<br>わたしって、ツナ缶が苦手なんだよね〜                 |
| ばわふる<br>(1.0)              | ★<br>バルサミコ酢のにおいだけでごめんなさい!                |
| 小山社長<br>(2.0)              | ★★..<br>確かにオリーブオイルをかけた方がうまい!             |

タイミングが合わなかった今月の試食会は淋しい人数でした。「まるで敗戦投手のような顔をしていますよ…」と村下社長に冷やかされていた社長。「明日、もう一回やってみるかなあ」とつぶやいていました。

外したエプロンをたたみながら「でも、これって実は、酒のつまみとしてうまいってことだったのかもなあー」。うん。そうだったのかもしれないね社長。大人になった子どもたちも、お酒を飲むようになりましたからねえ。



ところで、後でわかったことがひとつ。実はみんなツナ缶があまり得意じゃなかったのです。あらあら…



### 社長のちよつと長いコラム

## 「57才で思ういふ」

今月で57才になりました。還暦にまた一歩近づきました。自分がそんな年になっただけで、不思議な気がしますが本当なんだから、仕方ありません。

10代のころはサイモンとガーファンクルをよく聴きました。彼らの曲に『旧友』というのがありますが、「70才になった自分を、想像できるかい？」と30代で歌った二人が73才なんですから、わたしも50代後半になるわけです。ちなみにわたしの誕生日は昭和33年5月23日で、歌手の西川峰子とまったく一緒です。これが5月25日だったら、ボブ・ディランやマイルス・デイビスという音楽の巨人たちと(月日が)同じで、たいそう自慢したにちがいありません。

ところがマルセイの新人、気田恭平くんの誕生日がこの日なのです。恭平すごいなと説明したのですが、「その人たちすごいんですか？じぶんはよく知りませんが。」とアツサリ言われて、話はそこで終わってしまいました。



さて、これから60代に向けて何をしたいかと考えるのですが、マルセイをもっと良い会社にして、いずれば意欲ある人に継承してもらいたいというのが一番のことです。技術者としての自分の実力が半人前なことは痛感しているの、若い人材を会社に入れて向上させていきたいです。

仕事のことを離れたら、やはり若いときにしなかつた勉強をしたいなあと思います。本を読むのは好きなので乱読を積み重ねては来たのですが、何かをじっくりと継続して学んだということがありません。それをやってみたいなと、思います。

今月の本で紹介した『田舎のパン屋が見つけた「腐る」経済』の著者渡邊格さんは、じつは日本で初めて(つまり世界初)天然麹(こうじ)菌でパンを作るのに成功した人です。パン屋という仕事を究め続けている人なので、渡邊さんのこの奥深いパン作りの世界と、氏がマルクスを学んだことは関係があると思います。

今の世の中、インターネット上には情報が溢れかえっています。渡邊さんが疑問を抱いた「食」と「食ビジネス」についてだつて、ありとあらゆる情報がネット上で手に入ります。しかも、タダで。

でも渡邊さんは自分の仕事をよく知るのに、マルクスを読むという、時間も手間もかかる方法を選びました。このことと、渡邊さん曰く「おそろしく手間も時間もかかるパンづくり」ととり組んでいることは、無関係ではないはずですよ。

## 60代に向けて

### 何をしたいか

マルクスを大海に例えるなら、ネット上の情報は水中めがねでのぞいた海です。貯水池を海と感違いするかもしれない。10年くらい学んでも知り尽くせないことだからと組んでみたい。そんなことを思う、57才を前にした今日この頃です。



# さのばわふる日記



咲いた〜♪  
咲いた〜♪  
チューリップの花が♪

我が家のチューリップ、色々な種類があり、色も何種類もあったのですが、ご覧のように赤と黄色になつてしまいました。



ここ数年は球根を掘り起こさず植えっぱなしにしています。そのせいなのでしょうが原種に戻るのでしょうか？強い赤と黄色が生き残るのですね。まるで私とマックスさんのようです。でも、キレイに咲いてくれましたよ〜♪私達、今年はキレイに咲けるかしら…

冗談はさておき、やつと春が来た感じですよ。会社の花壇の植え込みも終わり、会社の周りも華やかになりました。やつぱりお花つて癒されるわ。今年こそは秘密の花壇を完成させて、テラスでお茶会をしなくちゃね。

ところが、秘密の花壇にコンソリと野菜の苗を植える人影が。この人物、植えても手入れもしない。水やりもしない。草取りもしない。

しかも、畑を掘り起こして、空いた時間に植え込みが出来るように準備万端にした状態の畑に、気がつくときチャッカリ見覚えのない苗が植えてある。あ〜このチャッカリさんには要注意！

さあ、あとはお花のハンギングバスケットを作つて飾ります。6月の中旬すぎのお天気の良い夕方にも、

当社の花壇を見がたら夕陽を見にいらして下さい。



発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理  
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

冬季期間 (11月~3月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~6:00土曜3:00

編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3400部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してみてください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123 FAX 0146-22-5789

